

令和6年度

第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会 議事要旨

1 日 時 令和6年7月11日(月) 午前9時00分～午後16時45分

2 会 場 スイトピアセンター学習館7階 会議室1

3 議 事

(1) 会の成立宣言

- ・協議会委員29人中27名の出席があり、本会の成立を宣言した。11:40より1名参加。

(2) 西濃地区採択協議会会長挨拶

- ・岐阜県では、県内7つの地区に分けて採択協議会を実施している。
- ・本会では採択原案を作成し、各市町(組合)教育委員会で議決される。
- ・採択の原案を作成し、原案を各市町(組合)教育委員会で審議し、決定する。
- ・中学校の採択替えとなる。小学校においては採択替えではなく、令和6年度と同様のものを採択するか否かを決定する。各種目について、主任研究員から綿密な調査に基づいた報告が行われる。各種目で調査研究結果報告があるので、不明な点について質問をし、協議をお願いしたい。
- ・西濃の生徒に合った教科書を採択できるよう、積極的な意見交換をお願いしたい。

(3) 第1回採択協議会以降の経過報告

- ・研究員による調査研究を3回実施した。
- ・6月に西濃地区教科書展示会を14日間実施し、そこでの意見書について資料に添付した。
- ・着眼点に基づいて調査研究した結果を、発行者の特色として意見書にまとめた。
- ・冊数が不足している見本本については、休み時間に見ていただけるよう、準備する。
- ・本日の協議の流れについての説明。

(中学校について)

全ての発行者について、特色を着眼点に基づいて説明。その後、協議、採決を実施。

(小学校について)

令和6年度と同様の教科書を採択するかについて協議。

(4) 議案の審議

- ・規約第3条に基づき、採択協議会会長の進行で議事を行った。

第1号議案

- ・『令和7年度使用中学校用教科用図書についての調査研究結果』を報告し、種目ごとに協議及び採択原案を決定した。

国語

<報告>

- ・「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、国語の指導で重点とする着眼点1(3)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。

1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 「光村」では、いつから、「語彙ブック」が添付されているのか。

→「光村」では、以前から語彙に関わる資料があったが、別冊という形は今回から添付されている。

●振り返りの数は、「光村」より「三省堂」の方が多いが、「教師の指導改善」に関わる学習活動はどれくらい掲載されているか。また、ICT活用に関わって、二次元コードの数も「光村」より「三省堂」の方が多いが、どうか。

→二次元コードは、数が多いければいいのかという点でも検討した。「光村」では、第1学年において、解説・案内等の補助的な内容が多いが、学年が上がるごとに、その数は減少している。掲載されている内容に大きく差異はないが、過去の学びとのつながりや関連があるという点で「光村」が優れている。

○論説文の例を見ると、「光村」は調べた内容、構成、文学表現が記載されており、その部分を見れば自己評価、振り返りができる構成になっている。「三省堂」は例文の下に解説があるが、「光村」の方が分かりやすく、指導に役立つ。

○「光村」は、振り返りの視点がはっきりしており学びやすい。

<採決>

・種目「国語」の教科書については、発行者「光村」を採択原案とすることを全員一致で可決。

書写

<報告>

・「東書」「三省堂」「教出」「光村」の4者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、書写の指導で重点とする着眼点1(2)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。

1 学習指導要領に関すること (2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性

2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●「光村」に行書の指導が若干多いが、どう考えるか。

→「光村」に行書の例が多いが、掲載内容については大きな差異はない。

「協働的な学び」「教科横断的な学び」が重視されているという点に注目して原案を作成した。

●「『東書』に対話を促す工夫が多い」とあったが、根拠が明確な部分を教えてほしい。

→「東書」第1学年「生活に広げる」「職場訪問をしよう」「地域の活動に参加しよう」において、話し合って学び深める仕組みがある。「光村」には話し合いの「写真資料」や「例」は多いが、「話し合いましょう」という指示はない。

○「光村」は写真・イラスト等もあり、「書写ブック」の活用も考えられるが、実際に活用するには時間がかかる。話し合いをもとに進めていくには「東書」がよい。

<採決>

・種目「書写」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

社会（地理的分野）

<報告>

・「東書」「教出」「帝国」「日文」の4者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、社会（地理的分野）の指導で重点とする着眼点1(1)、2(2)を中心に各発行者の特徴を報告した。

1 学習指導要領に関すること (1)資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成

2 西濃地区の指導の方針に関すること (2)生徒の学習改善、教師の指導改善

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

○「東書」の探求課題が単元を貫く課題に似たところがあり、最終的にまとめ方が多面的である。一方、「帝国」は視点が似ている。また、「東書」では、自然環境について、地形と降水量が

縦に比較でき、見やすい。「帝国」には、そのような記載がない。「東書」は他の地区でも地形・降水量が掲載されていることで、比較しやすい。

●過去に、他種目と地図の出版社の違いにより、生徒が違和感を訴えることがあった。地図は「帝国」となっているが、すり合わせはあったのか。

→目的が異なるため、他種目との地図のすり合わせはない。種目ごとに採択をするので、そのようなこともありうる。

●「東書」以外は見開きが全てSDGsを扱い、「東書」のみ「食」を扱っている。また、「東書」にはSDGsの記載が少ない印象があり、「帝国」もSDGsの表記がない為、優劣がない。では、地球的規模の課題を地理分野で扱うことについて、「東書」と「帝国」にはどのような違いがあるか。

→「東書」の見開きが「食」となっていることを研究員は大きく評価。

初めて地理を学ぶ第1学年が、世界に視野を広げる際、身近な部分を扱う方が学びやすい。他者が扱っているSDGsは非常に難しく、単元の出口に近い内容である。「帝国」は地図帳を先に制作していた出版社なので、地図資料については、とても優れていた。その為、約2年弱の中で、教師側は子どもたちにある程度の視点を地域ごとに与え、効率よく指導する必要がある。探究課題を適切にもって指導をする必要がある。

○SDGsは単元の出口が相応しいかもしれない。「東書」も出口でSDGsを扱っている。回答を聞くと、計算された構成になっているように感じた。

○「東書」では、導入で十分時間をとり、興味関心を引ける写真資料が掲載されている。また、資料集で学習するような地形・降水量等の気候に関わる部分も教科書に掲載されていること、生徒の主体性につながる、資料活用の仕方を学ぶページがあるのがよい。

○多くの写真があるとよいと思うが、教科書が重くなる。また、二次元コードが多数掲載されており、よい。

●教科書の研究を教師同士でしているか。

→重さも比較し、それも一つの観点となっている。今後デジタル教科書が発展すると思うが、重さについては、生徒の負担を考え、各学校で意識していくべき。また、採択された教科書の使い方については、岐阜県では盛んに研究されている。貸し出しもでき、採択されなかったものも参考にできる環境が整っている。

→重量は「東書」が一番軽い。

二次元コードは、資料を見に行くツールの一つでしかない。「東書」は、撮影した写真とともに、撮影場所や日時等も記録するようにと記載しており、ICT活用の仕方についても掲載されているという点で評価している。

○「東書」は多くの教科でSDGsを取り上げており、単元にとどまらない大きな見方を身に付けさせようとする仕組みがある。「帝国」は、該当ページが最初の見開きのみであり、学習の先を求めている点でも「東書」が優れている。

<採決>

・種目「社会（地理的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

社会（歴史的分野）

<報告>

・「東書」「教出」「帝国」「山川」「日文」「自由舎」「育鵬社」「学び舎」「令書」の9者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、社会（歴史的分野）の指導で重点とする着眼点1(3)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。

1 学習指導要領に関すること (3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 「東書」では、歴史的な見方・考え方を養うため、多くの視点でその時代を深く考えるよう方向性が示されているのがよい。
- 「東書」には、意図的に相互の関連が、振り返り・まとめページにある。これが、生徒が学びまとめるという点でどのように効果があるか。
- 「東書」は、フィッシュボーン図、くらげ図等、各所に図によるまとめが示されている。図によって学びをまとめていくという構成の工夫は「東書」のみにあり、生徒への新たな学びの視点、教師の指導改善につながる工夫として優れている。
- 歴史の全体像を捉えつつ、身近な地域を調査研究することには難しさがあるが「東書」は、全体を捉えつつ、身近な地域でも調査ができる構成になっているのがよい。
- アイヌ差別や琉球王国の差別について、「東書」、「日文」には1ページの記載がある。「東書」には、資料として別に掲載されているが、「日文」には記載はあるか。
- 民俗博物館の記載のみある。「東書」のような記載はない。
- 調査項目と着眼点3(1)「教科書の厚み、重量」に差があるとあるが、そのあたりを具体的に教えてほしい。
- 「東書」は287ページ、565gで比較的軽量である。「日文」は307ページ、610gでやや重い部類である。重さの違いが評価につながっている。
- 苦手意識のある生徒への指導には、導入資料、前時代からの変化・比較・関連が大切。導入資料の質と歴史の連続性の記載から、「東書」が優れている。

<採決>

- ・種目「社会（歴史的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

社会（公民的分野）

<報告>

- ・「東書」「教出」「帝国」「日文」「自由社」「育鵬社」の6者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、社会（公民的分野）の指導で重点とする着眼点1(3)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。
- 1 学習指導要領に関する事 (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 2 西濃地区の指導の方針に関する事 (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 「東書」の立場を変えて考えるという仕組みが、社会参画につながるという印象をもった。

<採決>

- ・種目「社会（公民的分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

地図

<報告>

- ・「東書」「帝国」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、地図を活用した指導で重点とする着眼点1(2)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。
- 1 学習指導要領に関する事 (2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性
- 2 西濃地区の指導の方針に関する事 (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 教科 社会では、地図以外は同じ発行者。地図も同一の発行者からの選択も可能だが、「調べる

補助的な資料として」ではなく、「それ自体が主体的な学習を促すものである」という観点で、他種目と一致していなくても選ばれたものがよい、という報告だと捉えてよいか。

→よい。

●印刷製本について「帝国」は「5色インクで…」となっているが東書は違うのか。

→色合いが異なり、4色を使っている。

○西濃地域の生徒が使うことを考えると、西濃地域の県境、不破の関や古戦場、大理石の採掘の有無等から、「帝国」が相応しい。

○「帝国」は見やすい。また、問いかけが様々なところにちりばめられ、調べ方の具体的な記載がある。他の地図と併せて調べようという記載もあり、複数の地図を見比べて気付くことができるようになっている。

<採決>

・種目「地図」の教科書については、発行者「帝国」を採択原案とすることを全員一致で可決。

数学

<報告>

・「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」「数研」「日文」の7者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、数学の指導で重点とする着眼点1(3)、2(2)を中心に各発行者の特徴を報告した。

1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

2 西濃地区の指導の方針に関すること (2)生徒の学習改善、教師の指導改善

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●第2学年の一次関数では、躓きが多い。どのような比較検討をされたかを教えてほしい。

→一次関数では、表・式・グラフを関連させるのが難しい。「東書」では、グラフの中、式の中、表の中での意味が比較してまとめられ、関連して指導できるようになっている。

●教科書で同じように扱われていても、各者に特色がある。この教材の扱い方の違いが、調査研究の中で話題になったか。

→小学校「拡大図と縮図」が中学校では、「相似な図形」となる。

「拡大図と縮図」では、各辺の長さを取って倍にし、「相似な図形」では、光を当てるイメージをもち、曲線を扱う。「東書」第3学年「相似な図形」の冒頭部分で、生徒がスマートフォンを使った「ワイプ機能」の拡大操作を行っている。ここで、「道路」で直線が、「植え込み」で曲線が、それぞれ大きくなることを示している。また、起点となるポイントを中心として大きくすることで、これが「相似の中心」につながる。つまり、生活の中に「数学的な見方・考え方」が隠れていることがさりげなく示され、隣のページにそれを作図するというように配置が工夫されている。

○「東書」は、具体に戻って操作したり、図を用いたりするなど、丁寧に扱われている点で優れている。

○「東書」は、多様な考え方をもてるような構成になっている。

○「東書」では、「節」の頭に「深い学び」コーナーがあり、数学の面白さに触れられると同時に、学ぶ意義・価値を考えながら学べる。「啓林館」も章の頭に「生徒同士が話をする吹き出しの部分」があるが、「東書」はその場面が多数あり、「学び合い」を設定しやすい。

<採決>

・種目「数学」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

理科

<報告>

・「東書」「大日本」「学図」「教出」「啓林館」の5者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、理科の指導で重点とする着眼点1(1)、2(3)を中心に各発行者の特徴を

報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (1)資質・能力の三つの柱(「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養)をバランスよく育成
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (3)生徒がICTを活用した学習活動

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 西濃地区は身近に河川があるという土地の特徴から「大地のつくり」の内容が大切かと思うが、そのあたりの比較検討について教えてほしい。
- 第3学年に「大地のつくり」の学習はあるが、着眼点に沿った調査研究しか行っていない。
- 「音の学習」について、「啓林館」では、タブレットを使って簡易オシロスコープの代わりにさせるという画期的な使い方をしている。「東書」は、全体としてコンテンツの内容や質がよかったのか。
- この部分では「啓林館」が優れているが、シミュレーション動画が多数ある点、各実験で二次元コードが位置付き、どの場面でも活用できるという点で「東書」がやや優れている。
- 前回の採択では、主体的な学びでは「東書」がよいが、ICT活用では「啓林館」がよいということで、「啓林館」が採択された。「東書」に戻したということは、これが改善されたということか。
- 二次元コードは、「啓林館」が587個で1.5倍、「東書」が750個で7.5倍に増加した。西濃地区の課題である、主体的・対話的な学びを引き出すことを考えると「東書」が優れている。

<採決>

- ・種目「理科」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

音楽(一般)

<報告>

- ・「教出」「教芸」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、音楽(一般)の指導で重点とする着眼点1(2)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。
- 1 学習指導要領に関すること (2)各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 「教芸」巻頭の記載が、「思考力・判断力」「知識・技能」において、「どの曲で何を指導するのか」が非常に分かりやすく、教師の指導事項が焦点化するのではないかと。「教出」にも同様の記載があるが、矢印がどこに向いているのかが分かりにくい。
- 西濃地区の学校では、1学級あたりの人数が様々である。生徒が主体的に学習を進めていくにあたって、よりどころになる部分はあったか。
- 両者ともワークシートがあり、学習の進め方が分かるようになっている。「教出」は学ぶ意欲を喚起する教材の工夫があり、感受したことを記入できるようになっている。「教芸」は、感受したことを交流し、その後、さらに音楽の要素をもとに交流するという流れができています。
- 二次元コードが「教芸」は多数掲載されている一方、「教出」はほとんど掲載されていない。西濃地区の教育において、二次元コードが多数掲載されている方がよいのか、二次元コードの数は評価の対象にならなかったのかを教えてください。
- 二次元コードの数は、「教芸」が「教出」の4倍近くで、かなりの違いがある。音楽では、音や映像を体感させることは大切なので、二次元コードが多数掲載されていることは非常に有効。

<採決>

- ・種目「音楽(一般)」の教科書については、発行者「教芸」を採択原案とすることを全員一致で可決。

音楽（器楽）

<報告>

- ・「教出」「教芸」の2者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、音楽（器楽）の指導で重点とする着眼点1(3)、2(3)を中心に各発行者の特徴を報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (3)生徒がICTを活用した学習活動

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 習熟度に差がある場合の指導のしやすさを考えた。アーティキュレーションが「教芸」は最初に、「教出」は最後に位置付けている。タンギングや様々な技能を学んだ後、演奏に入るべきだと思えば、「教芸」の配列がよい。最初の曲については、「教出」は難易度が高く、「教芸」は難易度が低い為、演奏を苦手としている生徒にとっては「教芸」がよい。
- 「教芸」に「表現の仕方を調べてみよう」という部分が数か所ある。多様な楽器の演奏の仕方が掲載されているが、実際には、学校にはそれほど多様な楽器はない。記載だけではなく、音を聞き比べたり、未知の楽器の音に触れたりできるようになっており、効果的である。
- 「教芸」では、姿勢や触れ方を丁寧に記載している。

<採決>

- ・種目「音楽（器楽）」の教科書については、発行者「教芸」を採択原案とすることを全員一致で可決。

美術

<報告>

- ・「開隆堂」「光村」「日文」の3者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、美術の指導で重点とする着眼点1(3)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

- 「日文」と「開隆堂」で1(3)「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の差が分かる部分と根拠を教えてください。
- 「日文」の「表現のヒント」に、学習の流れが明確に表現されている。また、生活に結びついた題材が扱われているため、生徒の考え方の軸が身近にあり、主体的な学びを生み出しやすい。
- 「開隆堂」に表し方のアイデアスケッチ例が記載されているページがあり、苦手意識のある生徒にとって効果的であるように思う。「日文」の方は、美しい作例が多く、敷居が高いように思う。「日文」で、苦手意識のある生徒に配慮した記載はあるか。
- 「日文」では、色鉛筆で描かれた完成作品がある。このように、限られている時間の中で、学習効果を上げるという視点で、大変生徒の実態に合ったものが多く、「憧れ」と「できそうだ」を同時に叶える構成になっている。

<採決>

- ・種目「美術」の教科書については、発行者「日文」を採択原案とすることを全員一致で可決。

保健体育

<報告>

- ・「東書」「大日本」「大修館」「学研」の4者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、保健体育の指導で重点とする着眼点1(3)、2(1)を中心に各発行者の特

徴を報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●調査項目2について、記載を見ると、(1)より(2)が優先されていると捉えてよいか。

→着眼点2(2)「生徒の学習改善、教師の指導改善」については僅差で「学研」、着眼点2(1)「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」については、「東書」が調べ学習・生活へのつなげやすさで圧倒的に優れている。

●新型コロナウイルス感染症の部分は、差がない。新型コロナウイルス感染症について、授業でどれくらい扱われているか。

→「東書」の「感染症の予防」において、ワクチンの効果が現行の教科書より具体的になった。

<採決>

- ・種目「保健体育」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

技術・家庭（技術分野）

<報告>

・「東書」「教図」「開隆堂」の3者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、技術・家庭（技術分野）の指導で重点とする着眼点1(3)、2(3)を中心に各発行者の特徴を報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (3)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (3)生徒がICTを活用した学習活動

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●左利きの生徒への配慮があったら、教えてほしい。

→差異はみられなかった。

●免外指導をする教師・経験が浅い教師など、専門性が心許ない教師にとっての使いやすさという点に関してはどうか。

→「東書」では、「見方・考え方」で分析できるよう、レーダーチャートの項目や指標の数が変わっている。これによって、指導時に着目するポイントのヒントになる。「開隆堂」にも社会からの要求が示されているが、重点が分かりにくい。

<採決>

- ・種目「技術・家庭（技術分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

技術・家庭（家庭分野）

<報告>

・「東書」「教図」「開隆堂」の3者について調査研究を行った。

・調査研究結果について、技術・家庭（家庭分野）の指導で重点とする着眼点1(1)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。

- 1 学習指導要領に関すること (1)資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●「食」に関する分野の違いがあれば、教えてほしい。

→一日の献立を立てる場面を比較すると、両者とも表が位置付けられている。

「東書」は、二次元コードを読み取ると計算ができ、「開隆堂」はこのようなものはない。

何をどれだけ摂取すればいいのかを考えさせたいので、表計算ができる点を評価する。

<採決>

- ・種目「技術・家庭（家庭分野）」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

英語

<報告>

- ・「東書」「開隆堂」「三省堂」「教出」「光村」「啓林館」の6者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、英語の指導で重点とする着眼点1(1)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。
- 1 学習指導要領に関すること (1)資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成
- 2 西濃地区の指導の方針に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●着眼点について具体的な部分を示してほしい。

→「東書」はスモールトークの内容が一覧になっており、表現の例が一目で分かる。「三省堂」は、各単元にスモールトークが位置付いているが、英文で導入が示されておらず、生徒や経験の浅い教師が困る可能性がある。また、「三省堂」には、スモールトークプラスとして、導入が示されているものもあるが、年間に4回のみである。

○マスクを着用している生徒がまだ多く、「東書」の「口形一覧」が効果的。

●西濃地区の英語教育は、オールイングリッシュが推奨されているか。

→オールイングリッシュを目指していこうとしている。文部科学省の英語使用率調査結果も年々数値が上がっている。小学校でも英語での指示を目指している。

<採決>

- ・種目「英語」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

道徳

<報告>

- ・「東書」「教出」「光村」「日文」「学研」「あか図」「日科」の7者について調査研究を行った。
- ・調査研究結果について、道徳の指導で重点とする着眼点1(1)、2(1)を中心に各発行者の特徴を報告した。
- 1 学習指導要領に関すること (1)資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養）をバランスよく育成
- 2 学習指導要領に関すること (1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

<協議>【質問：●、回答：→、意見：○】

●着眼点1(2)「各教科等及び各学年相互間の関係及び系統性、発展性」について、各者の違いを教えてほしい。

→各者内容項目に軽重をつけ、3年間でバランスよく配列しているのので、課題である「生命の尊さ」に着目した。「東書」では、「いのちを考える」というユニットで、同時期に各学年3教材、計9教材を、「教出」では、「命をかがやかせる」というユニットで、同時期に、計7教材を位置付けている。しかし、「生命の尊さ」に関するユニットにおいて、「東書」は「生命の尊さ」に特化しているが、「教出」は「よりよく生きる喜び」も含み、「生命の尊さ」に特化していなかった。

●「東書」では、付録で小学校の資料を再度扱っているが、どう評価しているか。

→35時間の中で扱うのは難しいが、参考資料としては使いやすいと思う。しかし、小学校とは

異なる発行者である。

<採決>

- ・種目「道徳」の教科書については、発行者「東書」を採択原案とすることを全員一致で可決。

第2号議案

- ・『令和7年度使用小学校用教科用図書についての調査研究結果』を確認し、協議及び採択原案を決定した。

<協議>

質問：・なし

意見：・なし

- ・全員一致で「令和7年度使用小学校用教科用図書西濃地区採択原案」のとおり可決。

第3号議案

- ・「附則9条本」の扱いについて事務局から説明した。

<採決>

- ・全員一致で承認。

(5) 連絡

- ・各市町（組合）教育委員会において、8月2日までに議決をとること、8月13日までに事務局に議決の報告を依頼した。
- ・全ての各市町（組合）教育委員会の議決が整った段階で、議決される。
- ・中学校教科用図書に関して、各市町（組合）教育委員会に全教科・全者の意見書を再送付することを確認した。
- ・議決が調わない場合は、規約等に基づき再協議となることを確認した。
- ・8月31日までは、一切を非公開とする。議決の内容について他言しないよう依頼した。
- ・9月1日以降、公開請求に応じて協議会委員の名簿等が公開となることについて了承を得た。
- ・各市町（組合）教育委員会において、情報公開の準備を進めることを確認した。
- ・7月19日を目途に資料を送付することを確認した。
- ・会計報告を10月1日に開催予定の教育長会にて行うことを確認した。

令和6年度第2回岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会の議事録は上記のとおりです。

岐阜県教科用図書西濃地区採択協議会

会長 細江 敦

副会長 吉田 秀慈